勤評は戦争への道
教師を囲み地域で懇談会

教組の話合いにも頑として応じようとしない政府は、勤務評定を強行して混乱におとしいれ、日教組を孤地に立たせようとしている。勤評反対闘争は教師のみの闘いでなく全労働者の闘いとして全国の労働者が立上つた。三鉱労組でも各支部でさかんに地域情宣がおこなわれているが、十日新港分会、十一日三里、南、諏訪、夜は本所臼井分会で教師を囲んで勤評闘争についての懇談会をそれぞれもよおした。

政府の腹は何か

十日夜七時三十分から港務支部新港分会では新港クラブで主婦を主体として分会員がギッシリとつめかけ、翌十一日午前十時からは同じく港務所港及クラブで、午後七時三十分から本所支部臼井集会所でそれぞれ教組の先生たちをかこんで勤評についての懇談会、説明会をおこなつた。

以下三会場で話された要点を摘記してみると。（問＝組合員、主婦　答＝教師）

問　勤評は先生たちの通信簿といわれますが、子供の通信簿とどう違いますか。

答　子供の通信簿は科学的に考査やテストで調査してつけますが誰がみても公平なのです。そしてこれは子供がよくなるように導くためにつけるのです。ところが先生たちのは公平なつけ方ではなく、校長さんや教育長の主観でつけます。好きな人にはよい点を嫌いな人には悪い点をやるというのは当然なのです。一番大切なことは、これで先生をよくならせる方向にもつて行くのではないということです。

嫌われた平和教育

問　評定の基準といいますか。そういうものがあるのですか。

答　誠実さと教育熱で評定するということです。私の体験ですが小学校のとき学力と心の教育をうけました。三、四年生ごろは女の先生から心の教育をうけ、高学年で中学受験をひかえ男の先生から学力を授つてもらいました。その結果八割近く合格者を出しましたが、もし評定をとられるなら学力を与えた先生が断然十点となる。人間は実際には心の教育が大切なのに、この先生には五点ぐらいしかならないでしよう。教育の効果というものはいますぐ現われるものでなく、遠い未来に現われるものです。一時的なことで点数をつけられ、先生の品定めをされるのはどうしても納得がいきません

問　勤評すれば戦争につながるといわれますが、どうしてですか

答　終戦後政府は誠実さと平和を教育の中に求め、力を入れました。ところがこのままだと再軍備ができないから池田、ローバトソン会談で教育二法案の取引きをしたのです。これを文部省がつくり上げました。この二法とは一つは教育の中立、一つは教育委員の任命制で、これで教師の政治活動を封じ政府の思うように教育させようというねらいになつたのです。そして教育課程の改訂をやつた、忠君愛国的な教育にし、ただ国のために死ぬことが国を愛することだと昔の考えのように仕向けるのがねらいです。

批判する子供へ

問　勤評とともに問題になつている道徳教育についてはどうですか。

答　よく親から、よくいいつけを聞くように教育してくれといわれますが、ただ親のいいなりに無批判に聞く子供はどうかと思います。もちろん親のいうことをきく子供も立派ですが、親を批判する子供も立派です。ハイハイという教育をしておけば戦争にも無批判に行くし、為政者の指図通り動く子供しかできません。これが道徳教育のねらいです。

私たちは別に道徳教育といつて特定の時間は設けず、各課目の中で教育しています。政府は教師を一番おそれています。五十数万の教師が全国に散らばつていますし、この人たちが平和と誠実の教育をやつて行けば、二十年三十年さきには民主的な子供が大人になり、政府の思う通りの人間がいなくなるからです。だから勤評をやつて、有能な先生に悪い点数をやり、この先生は左だとか赤だとかのレッテルをはつて、父兄の非難を浴びさせようとしています。

問　戦争以前は勤評などありましたか。

答　昔はありました。校長さんにゴマすれば二円三円の昇給はすぐあつていました。だから先生たちは内面ではイガミあつていたのです。こういうことでは本当の教育はできないのです。新聞でご存じのように勤評実施を悲観して教育庁前で自殺した先生があつたでしよう。五十二、三才の先生でしたので昔の状態をよく知つていたのです、それで昔の状態に戻るのが恐しかつた。これが自殺にまで追いやつたのです。

追いつめられた先生

問　問題になつている一斉早退について先生たちはどう考えておられますか。

答　悩んでいる先生は一人もありません。追いつめられてこれよりほかに方法がないのです。

子供にシワ寄せがかからないように相当論議したのです。さきの一斉早退のときも平均十時間分の仕事を各先生はしてプリントをつくるなど普通よりも過重な労働をしていますし、このあとも、空襲をとり返すために一生懸命になつたのです。

水泳大会おわる

大地評主催の水泳大会は、プールや各種行事の都合によつてのびのびになつていたが、秋風ふく去る九月七日、延命プールで七単産五十名の選手たちが、日ごろの技をきそつた。

この日、三鉱からは三川チームの精鋭が出場、朝からのくもり日よりに、ヒンヤリとハダ寒さを感じながらも、元気いつぱい各種目に熱戦の水しぶきをあげた。

成績は総合得点で最高の東田チームが優勝となつたが、来年あたりからは三鉱一本のベストメンバーによる参加が各方面から強く期待されていた。

当日の成績はつぎのとおり

一位　東　田（74点）
二位　市労連（53点）
三位　三　職（32点）
四位　三　川（24点）
五位　電　化（21点）
六位　国　鉄（10点）
七位　自　労（8点）

支部長杯の争奪戦

港務支部では来る十四日、支部長杯争奪のソフト・ボール大会をひらく。すでに組合せもきまり、熱戦が予想される。

【写真】上、港友クラブでの懇談会中、本所臼井集会所で。下、港務の新港分会にて。

映画
農民作家「和田伝」の野心作の映画化
いわし雲

大都会の影響をうけている農村（東京近郊）にメスをあてて、古い昔ながらの土にしがみついた生活をつづける親と、ぎりぎりの農村に自ら新しい道をみつけようとする子供たちと、それぞれの愛情、金欲、世間体など、現代のスポットをあて、土の執着との対比で描こうとするもの。

【ものがたり】八重が大川を知つたのは農家の実態を記事にするため、八重の家を訪問したときであつた。女学校をでて性格のハツキリした彼女が、深刻な嫁としゆうとの問題に悩まされているのを聞き、大川は同情をよせた。夫の戦死後、難物のしゅうとヒデをかかえ、一人息子の正を育てながら畑仕事におわれていた八重も、これがきつかけとなり大川と親しくなるにつれ心も体もいきいきと働らつのを感じた。

初治の嫁さがしに協力してくれたのも大川だつた。八重の兄、和助は昔は十町歩からの地主だつたが農地改革でのこされたのが一町八反、見かけは大自作農だが、自分が働らかねば暮しが保てずそのうえ親子九人の大世帯でしかも子供は初治からはじまつて三つ腹という複雑さだつた。そういうところへ嫁にきてくれるという相手の家を調べるため、八重は大川と山奥の村へ出向いた。そしてその娘みち子の義理の母親がなんと「俵もかつげぬ、五畝も刈れぬ…」とむりやりおいだされた和助の最初の妻とよであることを知つた。その夜、帰りのバスに乗りそびれた二人は、ついにはなれられぬ仲となつた。

左前の本家とはちがい、分家の大次郎は働きもので、妻やすえと浜子の三人暮しなのでフトコロぐあいはずつとよかつた。その浜子が大学へすすみたいといいだしたのを聞いて和助は血相を変えてどなりこんできた。和助の腹のうちとしては三男の順三を一町歩田つぎの浜子の婿にする考えからだつた二男の信次は商業学校をでて町の相互銀行に勤めているが、家族の和助の反対で大学をやめて町の洋裁学校に通いだした浜子は信次にあい次第に親しくなり、やがて彼の下宿を訪れるようになつた。その信次のところへ、和助は初治とみち子の結婚費用を心配して銀行をあてに頼みにきたが、信次は浜子の進学を干渉したのを快く思わず、相談にのつてくれない。

（十七日より太陽館で上映）

多い農家暮しをいやがつて、不経済だという和助の反対をおしきつてさつさと町へ下宿してしまつた

流麗、哀調ふくむ
刈干切唄（宮崎県民謡）

【写真】上、港友クラブでの懇談会中、本所臼井集会所で。下、港務の新港分会にて。

日向の高千穂へは日豊本線延岡から日の影線（南延岡―日の影）とバスで入りますが、この高千穂あたりで古くからうたわれているのが「刈り干し切り唄」なのです私のもつとも好きな民謡の一つですが、終戦後ラジオなどで一躍有名になつた同地方椎葉の里の「神楽掛節」以上に哀調をふくみ、民謡独特の小節（コブシ）を生かしたオーソドックスなメロディーです。

その流麗さは道ゆく人の足を、しばし釘づけにし、郷愁をそそることでしよう。

この唄は茅刈りうたで、四尺もある大きな鎌で山腹の茅を刈り、その日のうちに刈つた茅を干しあげ馬、牛のかいばとするわけです

思う山々、どの山をみても霧のかゝらぬ山はなく、日向の山々は深く、その深山に拓く高千穂の小盆地は、いまだに昔ながらの千木（チギ）を屋根にいたく農家が散在しており、平和郷をなしています。

茅刈りにつかれた腰をのばせば陽は西に傾き、山を下り帰路を急ぐ人々の背に、茅をいれた背負籠（カレイ）が重たく、この労働が毎日繰返されるのです。

最近ラジオ、レコードなどでうたわれる「刈干切唄」は流行歌調に採譜されていますが、この地方の唄の持味とは全然異つております。素朴な唄のなかにも、山間の生活のすがたがよくうたいこまれ一日の労働をいやす人々のたくましいうたごえはいつまでも消えることはありますまい。

また、同地の「わらべうた」を紹介してみますと

よい子　よい子
いうて　ねむら
ん子は　びんたに手こ
ぶし
あてやる　ねむれぬ　この子
うつつけ
うしの子　ねんねこ　いうて
ねらずに　おけたらおかめが
とつてかも　よい子　よい子
いうて
ねむらん子は　ねこのこ
うしのこ
ねんねこ　いうて　ねむらずに
おけたらおかめが　とつてかも

日向地方子守唄で、旋律もよく俗楽長音階の陰旋法（ミヤコブシ）をとり入れてあります。四拍子の静かな子守唄らしく、唄全体にやわらかく、方言の一つ一つにも愛着を感じます。

歌詞中の方言意は、びんた＝頭。手こぶし＝げんこつ。うつつけ＝打ち伏し。おけたら＝起きたら。かも＝かもう。

（やました）

なかまの本棚（2）
レーニン「左翼小児病」について

国際的な社会主義陣営の急速な前進を恐れる資本主義諸国は、「人工衛星」や「中東の独立」や「不況」なかんずく労働者階級の組織的な攻撃に直面し、いよいよその反動性を露骨なものにしているがそれはかれらの末期的なあせりのあらわれでもある。

さてわが国の場合でも、事態はまさにそのとおりで、昨年来の労働運動に対する独占資本の弾圧がこれをはつきり証明している。

したがつて、これからの反動期には、第一に卑劣な愛切的日和見（ヒヨリミ）主義、第二にヒステリカルな特攻精神（これを左翼小児病と呼ぶ）、第三に科学的な分析と冷静な指導の三つが、われわれの内部で今まで以上に鮮明な対立となることが必至である。

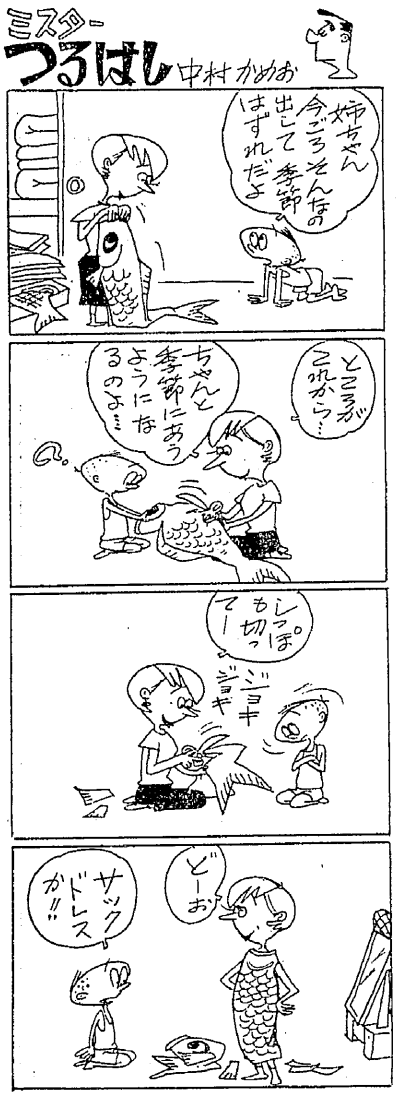
もちろん、この場合われわれは常に第三のみちをとるわけであるがそれにはレーニンの「共産主義における左翼小児病」が、まことに貴重な文献である。なぜならこの名著で、「正しい妥協」と「卑劣な日和見主義」のけじめを識らぬ生硬な急進主義者に対して鋭どい批判をレーニンが極めてわかり易く展開しているからである。

レーニンは「正しい攻撃と正しい退却とをまちがえずには、勝利することはできない」という真理をロシア革命の歴史的経験のなかから説明し、「武装した強盗団に無意味な抵抗はしない」という引例をし、同時に「プロレタリアは、客観的に不利な条件におされてやむをえずむすんだ妥協と、愛切者の妥協との区別を識つているし、その後の闘争にたいしてもつ革命的な献身と覚悟とを少しも弱めないような妥協が正しい戦術的妥協だと考える」と述べている。

また、この名著には、有名な「革命の条件」についての提言や政党と組合の関係などの基本課題が豊富に含まれている。

独占資本の頑強な反動、弾圧政策と、それに対するわれわれの鋭どい高揚とがガチツとかみ合う、これからの困難な一時期を眼前にし古典とはいえ内容的には文字どおり身近かな「左翼小児病」の秋夜の一読をおすすめしたいものである。

（は）

レーニン「共産主義における左翼小児病」
国民文庫社　定価一二〇円
その他各出版社からも出されています。

ミスター つるはし　中村かめお